

伊賀市多文化共生推進プラン事業計画

第1期(2023-2026)

【2025(令和7)年度】

事業進捗状況調書

■施策の展開■

<p>1. だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-A-(1) 災害時・緊急時における協働体制の確立 1-A-(2) 外国人住民の高齢化への対応 1-A-(3) 地域における生活支援の充実 1-A-(4) 生活困窮等対策の充実 1-B-(1) さまざまな相談に対する支援の充実 1-C-(1) 就労と居住に関する支援の充実 1-C-(2) 外国人差別への対応 	<p>2. 教育・子育てしやすい地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-A-(1) 子育て情報の充実 2-A-(2) 子ども・若者の居場所づくり 2-B-(1) 児童生徒一人ひとりに合った教育の推進 2-B-(2) 子育て支援に関する相談の充実 2-C-(1) 日本語指導、進学指導の充実 2-C-(2) 就学に関する情報提供の充実
<p>3. 国籍を越えた交流による地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-A-(1) 「やさしい日本語」の普及 3-B-(1) 文化・スポーツ交流の促進 3-C-(1) 学習・文化活動に参加できる環境づくり 3-C-(2) 外国人住民との連携・協働 	<p>4. 外国人住民も活躍する地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 4-A-(1) 日本語学習機会の拡充 4-A-(2) 双方向による情報受発信 4-A-(3) 外国人への偏見・差別の解消 4-B-(1) 住民の声を聴くための機会づくり 4-C-(1) まちづくり、地域づくりへの参画 4-C-(2) 外国人住民の人材育成と支援者の人材育成 4-C-(3) 外国人起業家などへの支援

「施策の取組の方向」は、

- 「A」早急に取り組むべきもの
- 「B」すぐに取り組めるもの
- 「C」じっくり取り組むものと分類し表記しています。

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)			③ 実績値 (2025)	① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2025)					
1 だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり													
1-A-	(1)	災害時・緊急時における協働体制の確立	① 平時からの情報の充実	◆多言語と「やさしい日本語」によるさまざまなツールを通じた情報提供	防災危機対策局	国際交流フェスタに出展し、伊賀市防災・情報アプリHAZARDONの（多言語）登録の啓発と防災に関するアンケートを実施します。	b：取組実績把握	-	-	-	国際交流フェスタに出展し、伊賀市防災・情報アプリHAZARDONの（多言語）登録の啓発と防災に関するアンケートを実施しました。	新規登録を増やすために、分かりやすいPRチラシを作成するなど啓発方法を見直す必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
					広聴広報課	引き続き、多言語及びやさしい日本語での発信ができるよう運用します。 ホームページの翻訳にベトナム語を追加します。	b：取組実績把握	市の発信事業	-	-	公式ホームページに多言語翻訳とやさしい日本語での閲覧が出来るようにしている。広報いかも毎月カタログポケットアプリによる外国語版の提供を行っている。また、ベトナム人の人口が増えていることから、ホームページの翻訳に「ベトナム語」を追加した。	市内の外国人住民の多様化に対応するため、R8年度からカタログポケットからマイ広報紙に乗り換えるようR8年度当初予算要求をしている。乗り換えることで言語数が増加する予定。	B：概ね計画通り取り組めた
					地域連携部 各支所	（上野支所）日本語が通じない場合は4階の多文化共生センターと連携し案内を行います。また、外国籍の方への窓口対応能力向上のため、地区市民センター職員も含め、「やさしい日本語」研修に積極的に参加します。	b：取組実績把握	-	-	（上野支所）窓口では、スマホアプリを活用するとともに、必要に応じて多文化共生センターを案内しました。また、地区市民センター職員や住民自治協議会に対して、外国籍住民との対応時に活用できる資料等を提供し、一部の自治協では、外国籍住民と一緒に「やさしい日本語」講座やイベントを開催し、災害時も想定した良好な関係構築に努められました。	（上野支所）来年度以降も継続して住民自治協議会に、やさしい日本語や多言語での情報誌の紹介など、外国籍住民対応例に関する資料提供を行います。	B：概ね計画通り取り組めた	
					多文化共生課	多言語情報紙や多文化共生センターfacebookなどを活用して生活情報を提供するとともに、イベントなどの機会に防災啓発を行います。	b：取組実績把握	-	-	毎月発行している多言語情報紙と多文化共生センターホームページに防災情報を気軽に得てもらえるようクイズ形式で掲載しました。また、HAZARDONや防災情報窓口を掲載したリーフレットを窓口を設置し、相談窓口の案内に併せて提供しました。	提供した情報がどの程度届いているかや実際に活用されるかなど、関係部署と連携して検証し情報提供の方法を検討する必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた	
					国際交流協会	ホームページや多言語情報紙で防災情報を発信します。	b：取組実績把握	-	-	・ホームページや多言語情報紙へ防災情報を掲載しました。 ・上野ロータリークラブ主催による“外国人のみなさんのための防災イベント”に出展。「やさしい日本語かるた」や「防災かるた」、「防災アクションゲーム」等で交流しました。	・今後もホームページや多言語情報紙を通して防災情報の発信に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた	
					エクセディ	避難訓練や安否確認メール訓練の実施	b：取組実績把握	-	-	・避難訓練（1回/年）を11月5日に実施。 ・安否確認メール訓練（3回/年）を7月24日、11月12日に実施。3月11日予定 ※24時間以内に全員から回答がありました。	継続的に実施しています。	B：概ね計画通り取り組めた	
	②	地域を「つなぐ」機能と体制の構築	◆既存のネットワークや企業、地域等の「まとめ役」を通じた情報伝達のしくみづくり	医療福祉政策課	地域生活課題について地域住民主体で解決に向けて協議を行う地域福祉ネットワーク会議を中心に、災害時においても情報が地域内で共有できるしくみを検討します。	b：取組実績把握	-	-	-	地域福祉計画策定の過程で市内全39地域の地域福祉ネットワーク会議において、「災害」をテーマとしたワークショップを実施した。	今後は、ワークショップで見えてきた地域課題について、改善策を検討するため、引き続き地域福祉ネットワーク会議の開催を推進していく。	B：概ね計画通り取り組めた	
				エクセディ	・緊急連絡先の把握 ・通訳を介した情報発信	b：取組実績把握	-	-	-	伊賀市の情報、イベント等を発信しています。 ・「外国人のための生活ガイドブック」 ・「やさしいほんごじょうほうしゅうい」が など	継続的に配信していきます。	B：概ね計画通り取り組めた	
				同和課寺田市民館	◆ニーズ・困りごとの把握	各隣保館等総合相談事業で、外国にルーツのある方等に地区学習会や文化祭等隣保館事業へ参加してもらったり、相談に対して解決まで適正に対応を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	各隣保館等総合相談事業で、外国にルーツのある方等に地区学習会や文化祭等隣保館事業へ参加してもらったり、相談に対して解決まで適正に対応を行いました。 地区学習会などのイベント・行事へ参加してもらいました。	困りごとを抱えた当事者に対し、隣保館の存在をいかに知ってもらうかが課題となります。引き続き、市民館だよりの発行、来館者との交流を深めることで情報の発信を行っていきます。	B：概ね計画通り取り組めた
	③	地域参加を通じた日頃からの関係づくり	◆自治会及び自主防災活動への参加促進（「自治」への理解を深める） ◆日常的な交流から防災訓練等に参加をつなげるしくみづくり	同和課ライトピアおおやまだ	平時の相談業務からニーズ・困りごとなどの把握に努めるとともに、外国人住民アンケート調査を継続して実施します。	b：取組実績把握	-	-	-	一元化窓口で受けた相談は担当部署へ繋ぎ、それぞれの困りごとに即座に対応できるよう情報共有を行いました。相談件数の多い内容や稀なケースなどは相談員で共有するよう努めました。また、ニーズを把握するため外国人住民アンケートを実施しました。	相談内容に応じて適切に担当部署へ繋げることで、それぞれ情報を共有することができました。 アンケート調査は予定の回答数に達しなかったため、他の方法も検討します。	B：概ね計画通り取り組めた	
				防災危機対策局	住民自治協議会や自治会、自主防災組織等からの依頼により、防災講話や防災訓練の指導等を行います。	a：数値把握	防災講話等の開催回数	70回	87回	住民自治協議会や自治会、自主防災組織等から依頼を受けて、防災講話や防災訓練の指導等を行いました。	地域に住んでいる外国人住民の参加を促す仕組みやコンテンツをつくる必要があります。	A：計画以上に取り組めた	

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2025)	③ 実績値 (2025)				
			◆外国人防災リーダーの養成	多文化共生課	外国人防災リーダーの活用支援を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	三重県主催のみえ外国人防災リーダー意見交換会を社協を通じてお知らせしました。	伊賀市社会福祉協議会との連携し、外国人防災リーダーの活用とさらなる養成の取組みが必要です。	B：概ね計画通り取り組めた	
				医療福祉政策課	災害時に自分の身を守り防災啓発を行うリーダーとして養成した外国人防災リーダー活用機会を作り、地域や各種団体との関係づくりを行う。	a：数値把握	外国人防災リーダー活用の機会の回数	5回	7回	災害ボランティアセンター設置・運営訓練や、外国人への防災イベント等へ出席した。	今後も、様々な機会に参加し、地域や各種団体との関係づくりを行っていく。	A：計画以上に取り組めた	
				社会福祉協議会	災害ボランティア養成講座の実施	a：数値把握	災害ボランティア養成講座への外国人住民及び外国人防災リーダーの参加者数	受講者累計 10	受講者累計(延べ参加者予定数) 8	4回シリーズの災害ボランティアコーディネーター養成講座【入門編】を実施し、外国人防災リーダーへの参加の呼びかけをしました。	養成された外国人防災リーダーの継続的な参加を得られる機会の創出を工夫したい。	B：概ね計画通り取り組めた	
	④ 防災知識の普及	◆防災教室・防火救命講習の開催	消防本部（管理課）	昨年同様、災害時に自分の身を守り、防災啓発活動を行う外国人防災リーダーを養成します。	a：数値把握	防火・救急講習の開催	1回以上	4回	・救命入門コースを実施 ・国際交流フェスタにて救命講習会を開催 ・上野ロータリークラブ救命講習会を実施 ・ビジネスブレイン協同組合にて防災講習会を実施	防火・防災普及啓発活動を4回実施することができた。今後も防火防災講習会を継続して実施し防災知識の普及に努めていきます。	B：概ね計画通り取り組めた		
					国際交流協会	国際交流フェスタへ関連団体の出展を依頼し、防災意識の啓発を行います。	c：その他	-	-	-	・8月、「ひゅ〜まんフェスタ」に出展。「やさしい日本語かるた」や「防災かるた」による防災知識の普及を行いました。 ・9月、上野ロータリー主催による「外国人のみなさんのための防災イベント」に出展。「やさしい日本語かるた」や「防災かるた」、「防災アクションゲーム」等を行い楽しく学習しました。 ・10月、「国際交流フェスタ」で、市、消防署、社会福祉協議会等へのブース出展を依頼、防災知識の普及に努めました。（参加者：約1,500人）	・今後も色々な機会を通じ防災意識の普及に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた
						社会福祉協議会	災害ボランティア養成講座の実施	a：数値把握	災害ボランティア養成講座への外国人住民及び外国人防災リーダーの参加者数	受講者累計 10	受講者累計(延べ参加者予定数) 8	4回シリーズの災害ボランティアコーディネーター養成講座【入門編】を実施しました。講演や設置・運営訓練に参加し災害の現場について学びました。	外国人住民の参画を得ながら、災害対策に協力してもらいなが講座内容
			◆地域、企業等における防災教室・防災訓練の実施	エクセディ	避難訓練や消火訓練の実施	b：取組実績把握	-	-	-	・避難訓練(1回/年)を11月5日に実施 ・初期消火、煙道訓練(4回/年)を6月4日、11日、10月15日、11月12日に実施。	継続的に実施していきます。	B：概ね計画通り取り組めた	
				国際交流協会	地区自治協と防災教室等を実施します。（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	b：取組実績把握	-	-	-	・久米自治協及び西柵橋まち協の2地区で、地域住民(外国人・日本人)を対象に「やさしい日本語」をツールとした研修(防災編)を実施しました。（参加者総数：49人、内外外国人住民14人） （伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースの3事業の内の1回として実施）	・外国人住民の参加を得ることは簡単ではない。地域(自治協・自治会)等の協力が不可欠である。	B：概ね計画通り取り組めた	
				社会福祉協議会	伊賀市災害ボランティアセンター設置運営訓練(災害VC)	a：数値把握	災害ボランティアセンター設置(運営)への外国人防災リーダーの参加者数	参加者 10	受講者予定 5	災害ボランティアコーディネーター養成講座【入門編】の1コマとして実施。やさしい日本語表記を取り入れた災害時の役割等に訓練をおこなう予定。	3/20実施予定	B：概ね計画通り取り組めた	
	1-A- 外国人住民の高 齢化への対応 (2)	① 情報発信の充実	◆多言語と「やさしい日本語」による福祉情報の充実	障がい福祉課	障害福祉サービスから介護サービス移行対象者への情報提供(やさしい日本語・多言語)をします。	b：取組実績把握	-	-	-	R7年度については対象者がいませんでした。	障害福祉サービスから介護サービスへの移行について支援者にも分かりやすく説明し、老後への不安を解消します。	E：不明、その他	
				介護高齢福祉課	外国人被保険者へ通知を送付する際、やさしい日本語を使用しルビを入れたものを同封します。介護保険料の払い忘れなど早期対応が必要なものについては、上記に加え、ポルトガル語・スペイン語・中国語対応の翻訳文を同封します。	c：その他	通知割合	100%	100%	介護保険料の納付に関する早期対応が必要な通知については、対象者の言語に応じた情報提供を行うことで、納付漏れによる不利益の防止に努めた。	現在は月に数件程度の対応にとどまっているが、今後の高齢化の進行に伴い、対応件数の増加が見込まれるため、持続可能な対応体制の整備について検討していく必要がある。	B：概ね計画通り取り組めた	
				地域包括支援センター	必要に応じて通訳者を介し、サービスや制度の説明を行います。	d：把握困難	-	-	-	-	必要に応じて通訳者を介し、サービスや制度の説明ができた。	取組を継続する。	B：概ね計画通り取り組めた
保険年金課				制度の説明や情報発信は、多言語のパンフレットを用いて行います。また、後期高齢者医療制度に新規加入する人へ送付するパンフレットの多言語化について、保険者である三重県後期高齢者医療広域連合と協議します。	b：取組実績把握	-	-	-	-	パンフレットを翻訳して配布することについて広域連合と協議したが、著作権の関係上、市が翻訳して使用することはできなかった。	既存パンフレットの翻訳の代わりに、外国語版の制度連合と協議したが、著作権の関係上、市が翻訳して使用することはできなかった。	B：概ね計画通り取り組めた	
エクセディ				ライフサポートセミナーの開催(50歳以上の従業員で希望者)	b：取組実績把握	-	-	-	-	社員向けライフサポートセミナー(1回/年)を1月25日に実施。	継続的に実施していきます。	B：概ね計画通り取り組めた	

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値 (2025)	③ 実績値 (2025)				
		② 相談体制の充実	◆社会福祉法人等との連携強化										
			◆通訳兼相談員の拡充	多文化共生課	需要に応じ対応言語の見直しを行い、多文化共生相談員を雇用します。	b:取組実績把握	-	-	-	ブラジル、ベトナムに次ぐ住民数となっているフィリピン国籍の住民に対応するため、4月からタガログ語通訳の相談員を配置しました。	映像通訳等の活用など、多言語に対応した相談体制の充実を推進する必要があります。	B:概ね計画通り取り組めた	
			◆窓口等における対応力の向上 （「やさしい日本語」の習得やケースの共有など）	多文化共生課	窓口における相談等の対応力向上のため、相談ケースの共有や研修を実施します。	b:取組実績把握	-	-	-	窓口対応などでの活用のため、「やさしい日本語」の使い方を職員用の電子掲示板に掲載し周知しました。また、一元化窓口の相談員は定例会議で相談ケースを共有し、対応力の向上を図りました。	「やさしい日本語」を活用できる職員の育成に努めます。国籍や年代に応じた対応のため、ケース検討会の実施や研修会の参加に努めます。	B:概ね計画通り取り組めた	
			◆関係機関における情報・課題共有の場づくり	社会福祉協議会	ポケトークの活用ややさしい日本語による可能な限りわかりやすい対応を実施します。	b:取組実績把握	-	-	-	ポケトークの活用や職員によるやさしい日本語での対応に努め、丁寧な相談対応に努めました。	特になし	B:概ね計画通り取り組めた	
		③ 福祉人材の育成	◆外国人の福祉人材の育成	医療福祉政策課	福祉教育プログラムに基づいた取り組みについてさらなる推進を図り、福祉人材の養成に努めます。	b:取組実績把握	-	-	-	福祉教育プログラムに基づいた取組を16回実施した。	直接外国人の福祉人材の育成にはつなげない。	B:概ね計画通り取り組めた	
				介護高齢福祉課	外国人の会計年度職員を雇用し、雇用期間中に制度の内容を習得することで、初期対応の時点で趣旨を捉え、スムーズに対応できるようにします。	b:取組実績把握	-	-	-	やさしい日本語での対応や、既存資料の活用など、可能な範囲で柔軟かつ丁寧な対応を行い、外国人住民への適切な情報提供に努めた。	会計年度任用職員だけでなく、関係職員全体で通訳を介した対応や、やさしい日本語を用いた丁寧な説明を継続し、外国人住民が安心して制度を理解・利用できるように努めていく。	B:概ね計画通り取り組めた	
				伊賀の伝丸	外国人福祉人材対象の日本語講座の提供をします。					EPA介護福祉士候補者、特定技能スタッフ（介護）への日本語講座などを複数社、担当しました。	今後も講座を提供するためには、適正人材の確保、価格など時代のニーズにこたえる工夫が必要と考えます。	B:概ね計画通り取り組めた	
				◆外国人材の採用促進									
		1-A- (3) 地域における生活支援の充実	① 生活オリエンテーションの充実	◆生活オリエンテーションやセミナーの実施	多文化共生課	転入外国人などに対し、生活オリエンテーションを実施します。	b:取組実績把握	-	-	-	依頼により転入の外国人に対し生活オリエンテーションを1件実施しました。地域からの要望により、ゴミ出しルールの周知を図るためのチラシの翻訳を行いました。	ごみの出し方や交通ルールなどを周知する機会や生活オリエンテーションの活用機会を取組みが必要です。	C:あまり計画通りに取り組めなかった
					国際交流協会	多文化共生センター窓口の補充事業として、軽微な相談及び関係機関等への取次をします。	b:取組実績把握	-	-	-	多文化共生センター窓口の補充として、来所者の軽微な相談への対応、関係機関等への取次ぎを行いました。	今後も知識の習得に努めます。	B:概ね計画通り取り組めた
社会福祉協議会	日常生活の相談活動（市社協） 日常生活の相談活動（民児連）				b:取組実績把握	-	-	-	市内全域で相談（アウトリーチ支援）ができる体制をとり、民生委員児童委員と連携して、外国人住民の相談に応じました。	特になし	B:概ね計画通り取り組めた		
◆生活ガイドブックの発行	多文化共生課			外国人住民に生活上の基本的なルールや制度などを知ってもらうため、「伊賀市でくらす外国人のための生活ガイドブック」（6言語）を広く周知します。	b:取組実績把握	-	-	-	4月に生活ガイドブックの改定を行い、転入の際にチラシを配布するほか、イベント時にも周知に努めました。	イベント時にアンケートした結果、生活ガイドブックを知らない人が多くいた。ホームページやフェイスブック、案内リーフレットなど様々な形で二次元コードの案内をしているが、周知や掲載の方法をさらに検討する必要があります。	B:概ね計画通り取り組めた		
② 地域における良好な関係づくり	◆地域等における「まとめ役」となる人材の育成	多文化共生課	多文化共生に関する理解を深め、外国人住民との交流が深まるよう、地域等において研修会や出前講座を実施します。	b:取組実績把握	-	-	-	生涯学習支援員や民生・児童委員への研修会で多文化共生についてお話ししました。地域のグループや児童館、小学校などへの出前講座を計7件実施しました。	出前講座は、同じ団体等から引き続き依頼があったり、参加された方から新たに依頼があったりと、その需要から多文化共生への関心が高まっています。今後も増えていくことが予想されます。	B:概ね計画通り取り組めた			
		1-A- (4) 生活困窮等対策の充実	① 生活困窮等の対策の充実	◆生活困窮等にかかる相談窓口の周知	生活支援課	生活困窮者の就労先啓発のため企業訪問を行った際に、外国人の相談窓口についても啓発を行います。	b:取組実績把握	-	-	-	市HPや広報などが自分で自立支援制度の普及啓発を行った。また、就労先開拓のための企業啓発において、外国籍の方の相談窓口について啓発を行った。	相談窓口を広く周知するためには、市HPや広報誌以外の普及啓発方法を検討する必要がある。居住支援協議会など他の関係機関が集まる会議等で、外国人対応での困りごとを把握し、相談窓口の周知や対応策を検討する。	B:概ね計画通り取り組めた
					伊賀の伝丸	当団体含め、市や社会福祉協議会など相談先の紹介をします。	c:その他	-	-	-	SNSなどを通じて相談会などを周知したり、個別相談には該当する窓口を案内しました。	時折、併走型支援（生活全般の支援）が必要な案件もあり、継続的に周知や対応のための予算が必要と考えます。	B:概ね計画通り取り組めた
					社会福祉協議会	多言語版おあいこのパンフレットを配布し、周知を図る。	b:取組実績把握	-	-	-	多言語版のくらし相談のパンフレットを、お米バントリーでの配布や相談窓口に設置しました。	相談窓口の周知啓発	B:概ね計画通り取り組めた
国際交流協会	市や関連団体などを紹介します。				c:その他	-	-	-	相談事に応じ市・関係機関等へ紹介を行いました。	今後も継続し行います。	B:概ね計画通り取り組めた		
◆窓口における対応力の向上 （「やさしい日本語」の習得やケースの共有など）	多文化共生課	窓口における相談等の対応力向上のため、相談ケースの共有や研修を実施します。	b:取組実績把握	-	-	-	窓口対応などでの活用のため、「やさしい日本語」の使い方を職員用の電子掲示板に掲載し周知しました。また、一元化窓口の相談員は定例会議で相談ケースを共有し、対応力の向上を図りました。	「やさしい日本語」を活用できる職員の育成に努めます。国籍や年代に応じた対応のため、ケース検討会の実施や研修会の参加に努めます。	B:概ね計画通り取り組めた				

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値 (2025)	③ 実績値 (2025)			
1-B-(1)	さまざまな相談に対する支援の充実	① 福祉・生活ニーズの把握	-	多文化共生課	平時の相談業務からニーズ・困りごとなどの把握に努めるとともに、外国人住民アンケート調査を継続して実施します。	b：取組実績把握	-	-	-	一元化窓口で受けた相談は担当部署へ繋ぎ、それぞれ困りごとに対応できるよう情報共有を行いました。相談件数の多い内容や稀なケースなどは相談員で共有するよう努めました。また、ニーズを把握するため外国人住民アンケートを実施しました。	相談内容に応じて適切に担当部署へ繋げることで、それぞれ情報を共有することができました。アンケート調査は予定の回答数に達しなかったため、他の方法も検討します。	B：概ね計画通り取り組めた
				医療福祉政策課	福祉ニーズを把握するために、毎年地域を決めて地域福祉ネットワーク会議単位でアンケートを実施しております。また、地域福祉コーディネーターが地域支援の一環で把握している地域アセスメントについても引き続き把握	b：取組実績把握	-	-	-	今年度1地区でのアンケートを実施した。また、地域福祉コーディネーターにより地域アセスメントも実施しました。	引き続き、アンケートとアセスメントを実施し、地域課題の解決につなげる。	B：概ね計画通り取り組めた
				障がい福祉課	窓口対応等の支援（やさしい日本語・多言語）をします。	b：取組実績把握	-	-	-	窓口が多言語表示可能な「透明字幕表示ディスプレイ」を設置し、多言語での窓口対応を行いました。	字幕表示については、簡潔で分かりやすく話を組み立てる会話スキルが必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
				生活支援課	経済的な困難だけでなく、ひきこもりなどの社会的孤立に関する幅広い相談に対応し、外国籍の方が抱える問題に寄り添い、関係機関と連携して自立に向けた支援を提供します。また、継続的な支援が必要な方には、本人の意向を尊重した支援プランを作成し、プランに基づき支援を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	経済的困難やひきこもり、社会的孤立といった幅広い相談に対応した。継続的支援が必要な方には、本人の意向を尊重した支援プランを作成し、関係機関と連携して寄り添いながら支援を行った。	長引く物価高騰の影響を受け、経済的な困難や就労支援での相談が増えている。また、中長期的かつ包括的な継続支援が求められるケースが増えてきている。	B：概ね計画通り取り組めた
				介護高齢福祉課	今後、外国人相談者がますます増加することを見込み、多文化共生課や地域包括支援センターと連携・情報共有しながら、効果的な制度の周知方法を検討します。	b：取組実績把握	-	-	-	制度の周知や相談対応に備え、やさしい日本語による情報提供の工夫や、関係機関との連携体制の確認を行うなど、必要時に備えた体制づくりに努めた。	令和7年度は該当する対応件数はなかったが、今後の発生に備え、関係機関との連携体制や対応方法について引き続き確認・共有を行っていく。	B：概ね計画通り取り組めた
				保険年金課	医療保険や国民年金の相談に来庁されたとき、通訳が必要な場合は同席して担当者とともに内容を詳細に聞き取るなどニーズの把握に努め、支援が必要な場合は関係部署へつなぎます。	b：取組実績把握	-	-	-	通訳が必要な際は、窓口担当者や連携して来庁者の要望を丁寧に聞き取り、専門用語を平易な表現に言い換える等、適格な情報提供に努めた。	制度改正や保健事業等の複雑な内容を確実に伝えるため、わかりやすい説明資料の整備・周知方法を検討する。	B：概ね計画通り取り組めた
				健康推進課	予防接種の予診票や検査事業の案内文等の翻訳をすすめます。	b：取組実績把握	-	-	-	新しく追加された予防接種の予診票や案内文を翻訳しました。また、医療機関のニーズに応じて、これまで翻訳されていなかった高齢者定期予防接種の予診票についても翻訳を実施しました。	対象者が多い言語については、予防接種の予診票等の翻訳に対応していましたが、医療機関からの申し出により翻訳を実施したケースもありました。このことから、日常的に必要な外国語に対する情報収集を行っていく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
				こどもの育ち支援課	母子健康手帳の外国語版の交付、予防接種予診票の翻訳等をすすめてきているところですが、各種案内文等対応できていない文書の翻訳をすすめています。	b：取組実績把握	-	-	-	母子健康手帳の外国語版は10か国語を準備し、対象者に応じたものを交付しています。各種案内文も翻訳版ができたものから、対象者に配布しています。	給付金等市民に直結した内容のものは翻訳版を配布していますが、対応できていない案内文などもあり、順次翻訳を進めています。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 相談・支援窓口における対応力の向上	-	多文化共生課	相談員対象の研修を実施します。	b：取組実績把握	-	-	-	名古屋出入国在留管理局による研修会を実施し、業務内容の確認や多様な対応事例の研修を行いました。また、定例会議で相談ケースを共有し、対応力の向上を図りました。	国籍や年代に応じた対応のため、ケース検討会の実施や研修会の参加に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた
				医療福祉政策課	高齢・障がい・子ども・生活困難といった分野にかかる相談支援を一体的に行う重層的支援体制整備事業について、引き続き取り組みの推進を図ります。	b：取組実績把握	-	-	-	地域包括支援センターを中心に相談支援を行った。相談支援包括化推進員を任命することにより、情報共有や意見交換を行った。	今後は、より多くの機関と連携することにより、さらなる対応力の向上に向けて、取り組みを推進していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				医療福祉政策課	令和6年度は多言語による相談件数が少なかったため、令和7年度においては「伊賀市救急・健康相談ダイヤル24」の多言語対応を広く周知し、外国人利用者の増加を図ります。また、多言語で相談を受けた際の円滑な相談対応の検証及び他の外国語対応の必要性についても検証します。	b：取組実績把握	-	-	-	多言語対応については、外国籍住民の転入時に利用案内チラシを配布するとともに、市広報誌や定住自立圏を構成する市町村の広報および各自治体のホームページ等を通じて継続的に周知を行った。	今後も相談件数および言語別の利用状況を定期的にモニタリングし、利用者の増加や特定言語への需要が確認された場合には、追加の言語対応や広報強化を速やかに検討する。	B：概ね計画通り取り組めた
				障がい福祉課	窓口で使用する申請書類の支援及び各種お知らせ等の情報提供（やさしい日本語・多言語）をします。	b：取組実績把握	-	-	-	使用頻度が高い書類については、ポルトガル語、スペイン語版を用意しています。	申請書は種類が多く複雑な内容もあることから、使用頻度の高いものなど優先度を決めて、順次やさしい日本語、多言語の対応をしています。	B：概ね計画通り取り組めた
				生活支援課	生活保護面談や生活困窮者自立支援の相談支援において、通訳の同席や三者間通話、タブレット端末による通訳などを活用し、分かりやすい説明を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	通訳者の同席やタブレット端末を使った通訳など、外国籍の方に理解しやすい相談支援に努めた。電話対応においても3者間通話を活用し、多文化共生を推進するための対応力を向上させた。	対応力をさらに向上させるためには、支援者自身が「やさしい日本語」に関する研修を受けるなど、自身の接遇スキルを高める必要がある。	B：概ね計画通り取り組めた

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値 (2025)	③ 実績値 (2025)			
				介護高齢福祉課	今後、外国人相談者がますます増加することを見込み、職員の「やさしい日本語」の習得や、外国人支援に関する研修やセミナー等積極的に参加し、課内で情報共有し、可能なことは順次実践していきます。	a：数値把握	研修やセミナーへの参加回数	1	0	日程や場所の都合により現地での参加は叶わなかったが、SNSや動画等のオンライン資源を活用し、それぞれ自主的な学習に努めた。 日常業務においても、やさしい日本語の表現や伝え方を意識しながら、外国人住民への対応力の向上を図った。	やさしい日本語に関する資料や研修の日程情報などを課内で共有し、職員全体で知識を蓄積できるよう努めていることが課題。可能な限り学びを深め、外国人住民への対応力の向上を図っていく	C：あまり計画通りに取り組めなかった
				保険年金課	通訳員を雇用するとともに、対応できない言語については翻訳タブレットを活用します。	b：取組実績把握	-	-	-	配置通訳員が対応できない言語については、翻訳タブレットを積極的に活用し、円滑な窓口対応に努めた。	来庁を躊躇することがないよう、翻訳タブレットを用いた多言語での窓口対応を行っていることの周知を検討する。	B：概ね計画通り取り組めた
				子どもの育ち支援課	訪問や相談対応時に通訳者の依頼や翻訳機等を利用して、相談や支援をします。	b：取組実績把握	-	-	-	家庭訪問や面談相談等、通訳者の依頼をすくと共にタブレットや翻訳機利用にて、分かりやすい相談や支援をします。	対面による通訳が一番効果的ですが、庁外や急遽対応時は、タブレットや翻訳機を使用して、的確に安心できる相談支援が求められます。	B：概ね計画通り取り組めた
				健康推進課	日頃からの通訳者との連携をはかり、窓口やメール等での問い合わせや相談について、通訳者への依頼や翻訳機の活用等、スムーズに対応できるようにします。	b：取組実績把握	-	-	-	窓口やメール等での相談事業に対して、通訳や翻訳機能を利用して対応しました。	例年に比べ、入国者による予防接種に関する相談が増加し、対応に時間を要しました。予防接種スケジュールが日本とは異なるため、適切に予防接種を受けてもらうために、今後もスムーズな連携を実施していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				国際交流協会	「やさしい日本語」習得のため研修会へ参加します。	b：取組実績把握	-	-	-	・当協会の総会において「やさしい日本語」の会員研修を実施しました。 ・地区自治協での研修を開催しました。	・今後も会員研修を行うとともに研修会等へ参加します。	B：概ね計画通り取り組めた
1-C-(1)	就労と居住に関する支援の充実	① 就労支援の充実	-	多文化共生課	就労に関する情報発信など、関係機関と連携し就労機会を確保します。	b：取組実績把握	-	-	-	雇用・労働に関する相談に多言語で対応し、関係機関に繋げました。 人権啓発企業訪問において、外国人の相談窓口や生活に関する情報を提供しました。	今後も関係機関と連携し、よりよい支援を上げていきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				商工労働課	多文化共生センターや通訳相談員などと連携しながら就労相談などを行います。 また、人権啓発企業訪問の際に外国人雇用があるか確認の上、言葉や文化に対する取り組みを行っているか実態把握し、取り組みがないなら取り組むよう検討を促します。	b：取組実績把握	-	-	-	職業相談員による職業相談を実施するとともに、人権啓発企業訪問において外国人の雇用等に関する啓発を行いました。 3月末までに192回の職業相談を実施するとともに、人権啓発企業訪問において196の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施します。	人権啓発企業訪問において、業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 居住支援の充実	-	多文化共生課	住居に関する情報発信など、住宅課と連携して行います。	b：取組実績把握	-	-	-	市営住宅や県営住宅の入居募集について多言語情報紙で情報発信し、相談業務では住宅課や関係機関に繋げることで解決を図りました。	居住支援協議会などの活用により、必要な支援の充実を図ります。	B：概ね計画通り取り組めた
				住宅課	賃貸住宅相談会の開催及び外国語通訳者の配置 安心住まい情報等の多言語版情報誌の設置 市営住宅募集にかかる多言語版の案内及び通訳者の確保	b：取組実績把握	-	-	-	安心住まい情報等の多言語版情報誌の設置 市営住宅募集にかかる多言語版の案内及び通訳者の確保	賃貸住宅相談会は、今年度設立の居住支援協議会において不動産事業者を含めた協議を進めており、今後は協議会での取り組みを検討していくため、今年度は実施していません。 市営住宅募集に関しては年2回の募集で外国人世帯から計2件の申込みがありました。	B：概ね計画通り取り組めた
1-C-(2)	外国人差別への対応	① 外国人差別に対する相談と救済の実施	-	人権政策課	外国人住民の権利侵害に当たる案件について、特に外国人差別の解消に向けて取り組む必要性のある相談について相談を受け付け、助言、調査、調整などの対応を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	ヘイトスピーチにあたる外国人差別に関する相談について、被害者救済のため、関係機関との調整、助言を行いました。	数多く寄せられる外国人住民の生活相談の中から、何が差別に当たるのかを見抜ける能力が必要となります。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	外国人差別に対する相談について、問題解決と当事者の救済に人権政策課と連携し取り組みます。	b：取組実績把握	-	-	-	人権研修を行い、窓口対応の向上を図るほか、相談を受けた際の対応について、業務フローを再確認しました。	相談員の人権意識を高め、差別事象や相談に適切に対応できる判断力を養います。	B：概ね計画通り取り組めた

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)			③ 実績値(2025)	① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価			
						タイプ※	指標名	見込値(2025)							
2	教育・子育てしやすい地域づくり	① 情報発信の充実	◆多様なツールを活かした情報発信	多文化共生課	多言語情報紙や多文化共生センターのホームページ、facebook等を活用し、多言語及びやさしい日本語で子育て情報を提供します。	b：取組 実績把握	-	-	-	多言語情報紙やフェイスブックで、健診や相談日を毎月掲載するほか、子育てに関する情報を提供しました。	関係部署と連携して、子育て世帯など必要の人に確実に届く情報発信の方法を検討する必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた			
				子育て支援室	市内8か所の子育て支援センター案内チラシ（5か国語）を作成し、子育て支援センターをまだ利用したことのない子育て世代に知ってもらえるように活用します。	b：取組 実績把握	-	-	-	5か国語翻訳した子育て支援センターのチラシを関係部署に設置してもらっている。子育て支援センターを利用する外国籍の親子の数も昨年度より増えており、リピーター利用者もいる。10月に開催された国際交流フェスタでも子育てブースとして参加し、木のボールプールなどの遊具効果もあり、来所者に案内チラシを渡す機会も増えた。	子育て支援という立場では、まだ一部の家庭にしか周知が届いていない。外国籍の子育て世代に情報発信するためには、転入手続き対応の部署や企業連携などが必要と考える。また、ファーストコンタクトである乳児訪問事業での周知もより具体的に実施できるとよい。国際交流フェスタへの参加は継続したい。	A：計画以上に取組めた			
				こどもの育ち支援課	子育て事業等、翻訳機やSNS等を利用して案内や子育て情報を提供します。	b：取組 実績把握	-	-	-	母子健康手帳の交付や幼児健康診査の場において、通訳者の依頼や翻訳機を利用して、情報発信をしました。	通訳者が不在の際は十分に情報が伝わりにくいため、予約の上の来所を推奨します。翻訳機を利用しての案内も、分かりやすい日本語で伝わりやすいよう工夫します。	B：概ね計画通り取り組めた			
				保育幼稚園課	・窓口に通訳（2か国語）を配置します。 ・公立2園には主にポルトガル語通訳が可能な保育補助を配置します。 ・各園から配信する手紙にはルビをふり、わかりやすい日本語での表記に努めます。 ・通訳者の不在時や通訳者が対応出来ない言語は、タブレット端末（ポケトーク）を利用した多言語通訳システムにより対応します。	b：取組 実績把握	-	-	-	・園児による外国人差別（ヘイトスピーチ）があり、保護者啓発や職員研修について、より取り組む必要があります。 ・公立2園には主にポルトガル語通訳が可能な保育補助を配置しています。 ・各園から配信する手紙にはルビをふり、わかりやすい日本語での表記をしています。 ・必要な園に対して、通訳者の不在時や通訳者が対応出来ない言語は、タブレット端末（ポケトーク）を利用した多言語通訳システムにより対応しています。	B：概ね計画通り取り組めた				
				学校教育課	児童生徒や保護者が学校生活等に関する連絡や相談等について、母語で意思疎通できるように電話通訳等による対応を行います。また、県の外国人児童生徒巡回相談員やNPO法人を活用します。	b：取組 実績把握	-	-	-	県の外国人児童生徒巡回相談員やNPO法人を活用し、通訳者派遣や翻訳について学校からの要請に対応しました。また、タブレットを上野東小学校、上野西小学校、学校教育課に配置し、電話通訳等が必要な学校へ貸し出すことを広く周知し、活用の幅を広げました。	通訳者派遣や翻訳について学校からの要請に適切に対応し、学校と子ども、保護者とのつながりを支援することができました。特にタブレットによる電話通訳については多くの学校で活用し、保護者とのつながりにおいて非常に効果的でした。今後、多国籍化、散在により通訳・翻訳の需要がますます高まることが予想され、予算面における課題となります。	B：概ね計画通り取り組めた			
				医療福祉政策課	高齢・障がい・こども・生活困窮といった分野にかかわる地域づくり支援を一体的に行う重層的支援体制整備事業について、引き続き取り組みの推進を図ります。	b：取組 実績把握	-	-	-	地域包括支援センターを中心に相談支援を行った。相談支援包括化推進員を任命することにより、情報共有や意見交換を行った。	地域包括支援センターを中心に相談支援を行った。相談支援包括化推進員を任命することにより、情報共有や意見交換を行った。	B：概ね計画通り取り組めた			
				社会福祉協議会	外国人住民交流支援事業（国際交流フェスタの会場内にて防災・福祉活動を啓発）	a：数値 把握	社協ブース来場者数	100	20	外国人住民交流支援事業（国際交流フェスタの会場内にて防災についての啓発）をしました。緊急持出袋の展示、断水時のトイレの使い方を啓発しました。	災害ボランティアセンターが災害時に相談できる場所であることをPRできるように工夫します。緊急持出袋の展示、断水時のトイレの使い方を啓発しました。	B：概ね計画通り取り組めた			
				② 相談体制の充実	◆通訳兼相談員の拡充	多文化共生課	需要に応じた対応言語の見直しを行い、多文化共生相談員を雇用します。	b：取組 実績把握	-	-	-	ブラジル、ベトナムに次ぐ住民数となっているフィリピン国籍の住民に対応するため、4月からタガログ語通訳の相談員を配置しました。フィリピン人からの相談件数は増えています。	映像通訳等の活用など、多言語に対応した相談体制の充実を推進する必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた	
						多文化共生課	窓口における対応力の向上（「やさしい日本語」の習得や相談ケースの共有など）	b：取組 実績把握	-	-	-	窓口対応などでの活用のため、「やさしい日本語」の使い方を職員用の電子掲示板に掲載し周知しました。こども政策課には、依頼により職員へのやさしい日本語活用の実践研修を実施しました。また、一元化窓口の相談員は定例会議で相談ケースを共有し、対応力の向上を図りました。	「やさしい日本語」を活用できる職員の育成に努めます。国籍や年代に応じた対応のため、ケース検討会の実施や研修会の参加に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた	
						◆関係機関における情報・課題共有の場づくり									
						2-A- 子ども・若者の居場所づくり	① 子ども・若者の居場所づくり	◆地域における子ども・若者の居場所づくりに関する取組の推進	こども政策課	B&G財団の助成金を原資として、こどもの居場所づくりを行う団体への補助を行います。	b：取組 実績把握	-	-	-	運営費に係る補助金を交付しました。
				生涯学習課	小学生を対象として、放課後や長期休暇中の活動拠点（居場所）を提供します。また、今年度から開設する教室へ適切な指示・助言を行います。				a：数値 把握	放課後子ども教室開設数	5か所	5か所	小学生を対象として、安心・安全な子どもの活動拠点（居場所）を提供し、地域の下端の参画を得て、勉強やスポーツ、文化芸術や体験活動の取り組みを支援しました。	各子ども教室間の連携や情報交換の場を設け、一層の活動の強化や相互連携にも取り組みたい。また放課後児童クラブとの連携も進めたい。	B：概ね計画通り取り組めた

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)			
				社会福祉協議会	・地域食堂連絡会を基点にした伊賀市内の地域食堂（こども食堂）の推進 ・あらゆる世代が集える居場所づくりの支援（コミュニティカフェ）	a：数値把握	新規の居場所立上げ数	2	2	外国人住民も含む地域住民が身近な居場所として参加できる地域食堂の運営、立ち上げ支援おこないました。ふれあい子育てサロンや地域食堂においても、外国にルーツのある子どもとの参加がありました。	概ね計画通り取り組めました。	B：概ね計画通り取り組めた
				国際交流協会	漢字学習支援教室の運営実施（受託）をします。 イベント等での日本文化等の紹介をします。	b：取組実績把握	-	-	-	・漢字学習支援教室で学習する外国につながる児童（小学1～4年生）を対象に、日本文化や習慣、俳句などを学ぶ機会を設けました。（漢字教室41回） ・「国際交流フェスタ」にて、日本の遊びブースを設け、多くの子どもたちが楽しく遊びました。		B：概ね計画通り取り組めた
				伊賀の伝丸	学習支援教室ささゆりの運営実施（受託）をします。	a：数値把握	延べ参加生徒数	500人		ささゆり教室では学習の他、気になる子どもには親子面談を行っています。	週1回で、子どもとの信頼関係を十分築くことはむずかしく、何か困りごとがあるようでも子どもからの相談にはなりにくい点を、改善したい	B：概ね計画通り取り組めた
	2-B-1 児童生徒一人ひとりに合った教育の推進	①「特別的教育課程」による指導の推進	-	学校教育課	外国人児童生徒が日本語で学校生活を営み、学習に取り組むことができるよう、市内小中学校に在籍するすべての日本語指導が必要な外国人児童生徒に「特別的教育課程」を編成し、日本語指導を行います。	a：数値把握	「特別的教育課程」を編成し、日本語教育に取り組む学校	100%	100%	外国人児童生徒が日本語で学校生活を営み、学習に取り組むことができるよう、市内小中学校に在籍するすべての日本語指導が必要な外国人児童生徒に「特別的教育課程」を編成し、日本語指導を行いました。	各校で外国人児童生徒それぞれの教育課程を編成して取り組むことで、外国人児童生徒に力が付いてきています。漢字検定の受験や高校受験にもつながっています。今後も「特別的教育課程」を編成し、個に合わせた指導をしていきますが、対象の児童生徒の増加や多様化が素予想され、指導する教職員も必要となります。	B：概ね計画通り取り組めた
	2-B-2 子育て支援に関する相談の充実	①発達支援に関する相談体制の充実	-	こどもの育ち支援課	安心して子育てや発達の相談ができるよう、通訳者の依頼や翻訳機を利用して保護者の気持ちに寄り添った支援をします。また、2か国語（ポルトガル語・スペイン語）の通訳を課内に配置し、窓口・電話・訪問等で相談しやすい体制を作ります。	c：その他	多言語対応	20回	24回	安心して子育てや発達の相談ができるよう、通訳者の依頼や翻訳機を利用して保護者の気持ちに寄り添った支援をしました。また、2か国語（ポルトガル語・スペイン語）の通訳を課内に配置し、窓口・電話・訪問等で相談しやすい体制を作りました。	相談や事業で要望があった場合は通訳者の依頼をしますが、困難な場合もあります。その場合翻訳機を利用して個別にわかりやすい内容で対応していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
	2-C-1 日本語指導、進路指導の充実	①日本語学習指導の充実	-	多文化共生課	外国につながるを持つ児童生徒に対し、学習支援を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	委託事業により小中学生への学習支援を実施しました。夏休みと冬休みには外国につながるをもつ小中学生を対象に学習会を実施しました。（8月6日・7日延べ55名参加、12月26日27名参加）	ボランティアスタッフの充実が課題となっています。	B：概ね計画通り取り組めた
		②進学に関する支援の充実		学校教育課	各校に日本語指導コーディネーターを派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修などを実施するとともに、外国人児童生徒教育の担当者を対象に研修を実施します。	b：取組実績把握	-	-	-	外国人児童生徒教育コーディネーターである船見和秀先生を小中学校へ派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修、個別の測定のサポートを行い、受入体制の整備につなげました。また、船見先生を講師として、市内全小中学校の外国人児童生徒教育（日本語指導教育）の担当者を対象に日本語指導者研修会を行いました。 （1）第1回研修会（5月26日） ・講義「はじめての日本語指導～最新情報をふまえて～」 （2）第2回研修会（8月18日） ・講義「実践をシェアしよう～わかりやすい授業のために～」 ・ミニパネルディスカッション ・グループ交流	外国人児童生徒教育コーディネーターを派遣することに、小中学校の指導体制や日本語指導等の課題に応えることができました。また、児童生の日本語能力に合わせて、適切な教材の紹介やその活用等、必要な情報を提供することができました。 研修会では、「やさしい日本語」で話すポイントとしての「ハサミの法則」や、児童生の多様な背景をつかみ、長期的な将来ビジョンを把握したうえで取組に学びました。また、実践報告やパネルディスカッションをきっかけにして自らの取組を振り返り交流することで、学力保障や進路指導に取り組むことの重要性を学ぶことができました。	B：概ね計画通り取り組めた
				学校教育課	市内すべての中学校において、高校進学等に向けた進路指導・キャリア教育を実施します。また、外国にルーツをもつ児童生徒とその保護者を対象に進路ガイダンスを開催し、高校入試や進学後の費用等について説明します。	b：取組実績把握	-	-	-	外国につながるをもつ児童生徒とその保護者を対象に、「伊賀地区外国につながるをもつ子どもと保護者の進路ガイダンス」を実施しました。小学5年生から中学3年生とその保護者を対象とし、9月28日に開催しました。 【進路ガイダンスの内容】 ・日本の学校制度や高校入試についての説明を母語別に行いました。 ・希望する高校との個別面談を中学3年生とその保護者を対象に行いました。 ・「先輩からのメッセージ」として、市内の小中学校を卒業し、現在、高校・職場等で活躍する先輩を招き、高校受験に向けた学習や学校生活について、当時の思いを交えて話してもらいました。	小中学生76名と保護者71名が参加しました。参加者からは、「とても役に立った」「とてもわかりやすい」「子どもを大学に進学させたいと思います」等の感想が寄せられ、それぞれの進路に向けて、貴重な機会となったことが感じられました。参加者及び希望者には言語別（ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語、日本語）の「高校進学ガイドブック2025」を配付しました。「全ての情報をポルトガル語で提供していたのでわかった」等の感想がありました。	B：概ね計画通り取り組めた

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)			
				伊賀の伝丸	若者支援（既卒の進学支援）や学習支援教室ささゆりの運営実施（受託）をします。	c：その他	高校進学実績など	-	-	義務教育年齢を過ぎた生徒の高校受験支援を行っています。令和7年度は2名の生徒を支援しています。1名は今期受験ですが可否は未定。ささゆり教室においても、受験学年の生徒には、受験科目の指導（作文、面接練習）などを実施しています。本年度は進路ガイダンスについては「協力」という形で参画させていただきました。	義務教育年齢を過ぎた生徒の場合、日本の受験制度に対応できないとき（学習の難易度、経済的な理由など）にどうするのか、を今後も引き続き検討することが必要と考えます。また対応する人材等に係る予算が少なく、年度によって支援する生徒の数や赤字が大きくなる点を、団体としては改善しなければならぬ。	B：概ね計画通り取り組めた
	2-C- 就学に関する情報提供の充実 (2)	① 就学に関する情報提供の充実	-	学校教育課	編入・転入時には、多言語版の就学パンフレットを用いて就学相談を行います。その際、通訳者を併い丁寧に説明を行います。また、状況に応じて初期適応指導教室への入室を勧めます。	b：取組実績把握	-	-	-	編入・転入時には、必要に応じて多言語版の就学パンフレットを用いて就学相談を行いました。その際、通訳者を併い丁寧に説明を行いました。また、状況に応じて初期適応指導教室への入室を勧めました。【初期適応指導教室3人入室（R8年1月時点）】	パンフレットを活用して、日本の学校教育等の説明をスムーズに進めることができました。現在、ポルトガル語・スペイン語・中国語・フィリピン語・タイ語・英語・日本語の7言語のパンフレットで対応していますが、ベトナム語も必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 未就学児童への対応	-	学校教育課	住民課と連携し、住民登録の際には教育委員会にも来ていただくよう依頼します。万一、未就学の児童生徒を把握した際には、家庭訪問のうえ就学を促します。外国人学校へ通学している場合も、在籍証明書の提出を依頼します。	c：その他	-	-	-	住民課と連携し、住民登録の際には教育委員会にも来ていただくよう依頼しました。未就学の児童生徒を把握した際には、家庭訪問のうえ就学を促しました。外国人学校へ通学している場合も、在籍証明書の提出を依頼しています。	今後も住民課との連携をより一層強化し、外国人児童生徒の就学状況を把握し、就学促進を図ります。	B：概ね計画通り取り組めた

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価	
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)				
3	国境を越えた交流による地域づくり												
	3-A- (1)	「やさしい日本語」の普及	①「やさしい日本語」の普及	◆行政職員向け「やさしい日本語」の研修実施・普及	人事課	新規採用職員前期研修に「やさしい日本語」の研修を取り入れます。	a：数値把握	研修会の実施	1回	1回	多文化共生課と調整し、新規採用職員を対象とした「多文化共生とやさしい日本語について」の研修を行いました。	各所属における業務や研修がある中で、どのような形での実施方法が適当か引き続き検討していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
						多文化共生課	職員向け「やさしい日本語」研修会を行います。	a：数値把握	研修会の実施	1回	2回	新規採用職員に対し「やさしい日本語」の研修を実施しました。全職員に対しては、職員用の電子掲示板に「やさしい日本語」について3回シリーズで掲載しました。また、「やさしい日本語」の活用について課内職員に対する研修依頼があり、所属職員11名に対し実施しました。	所属単位などの中小規模の講座を実施することで、より活用に結び付けやすい実践練習を行えたため、今後も実施できるよう周知を図ります。
					多文化共生課	出前講座の依頼によりやさしい日本語講座の実施や講師の派遣を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	委託事業により、基礎から実践練習までを行うやさしい日本語講座を実施しました。（多文化共生コミュニケーションマスター養成講座）協働による地域活動支援事業を募集し、2団体に実施していただきました。	関係団体の協力のもと、地域や企業等と連携して「やさしい日本語」を普及していくための取組を引き続き検討していく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
						社会福祉協議会	伊賀市災害ボランティアセンター運営訓練において、UDを意識したやさしい日本語を取り入れた受付等工夫して実施する。	b：取組実績把握	-	-	-	3/20やさしい日本語の表示を取り入れた、災害ボランティアセンターの運営訓練を実施予定	
					伊賀の伝丸	多文化共生を推進するコミュニケーションマスター養成事業（やさしい日本語ステップアップ講座）を実施します。	a：数値把握	4回講座延参加者数	100人	102人	多文化共生推進コミュニケーションマスター養成事業として「やさしい日本語ステップアップ講座」（全4回）を実施しました。皆さん熱心に学んでいただき、また職場などでの活用や研修テーマとして広がっています。	受講生も巻き込んで、これからのように「やさしい日本語」を実践しているかが今後の検討課題です。	A：計画以上に取り組めた
					国際交流協会	やさしい日本語でつながろう！「導入編」を実施します。（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	b：取組実績把握	-	-	-	・外国人住民との交流を深めるためのツールとしての「やさしい日本語」の普及を図ることを目的に、久米自治協及び西柘植まち協で地区との協働による研修（導入編）を開催しました。（参加者総計：44人）（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースの3事業の内の1回として実施）		B：概ね計画通り取り組めた
	中外医薬	こちらが把握している以上に対象者がいる可能性があるため、新しい内容や珍しい内容については、可能な限り社内掲示を全て「やさしい日本語」で掲示します。	b：取組実績把握	-	-	-	社内のチラシを「やさしい日本語」で掲示し、すべての社員が理解できるようにした。	社員とコミュニケーションを取りながら、対象者と思われる社員には声掛けを含めて対応していく。	B：概ね計画通り取り組めた				
		3-B- (1)	文化・スポーツ交流の促進	①多文化交流機会の充実	-	上野図書館	多言語で外国語表記のある絵本等の読み聞かせを行います。	a：数値把握	多言語おはなし会の開催数	1回	1回	日本語とスペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、英語それぞれの他言語での読み聞かせを行い、参加者の外国語への理解に繋がった。	B：概ね計画通り取り組めた
	多文化共生課	多文化共生センターのイベントなど、さまざまな国の文化に触れ、交流できる機会を創出します。	a：数値把握	イベントの実施	3回	3回	10月5日（日）にJAいがふるさと「ひぞっこ」で国際交流フェスタを開催し、世界の国や文化に触れるブースを設置しました。また、委託事業により多文化共生センターイベントを実施しました。（インドネシア料理教室、旧正月イベント）	イベントの内容を精査し、委託や地域移行など検討していかねばならない。	B：概ね計画通り取り組めた				
		芭蕉翁記念館など文化施設のパンフレットや発行人物、やさしい日本語や多言語表記で作成することに努めます。	b：取組実績把握	-	-	-	案内チラシや出前授業の配布資料、館内資料については、ルビを付けたり、やさしい日本語を使用しました。また、一部の館内資料では多言語表記を採用しました。	現在、やさしい日本語や多言語表記を使用した資料は一部にとどまっていますが、今後、芭蕉翁記念館や市民ミニギャラリーの展示などでこれら表記を活用することを検討していきます。	B：概ね計画通り取り組めた				
		伊賀市国際交流フェスタを開催します。国際交流や親子で参加できるイベント、外国文化・習慣等に触れるイベントを実施します。	a：数値把握	イベント等の開催	3回	5回	・やさしい日本語でつながろう！（交流編）2回、国際交流フェスタ、世界の料理教室インドネシア料理、旧正月を一緒に祝おう！など外国文化・習慣等に触れるイベントを実施しました。	今後も継続していきます。	A：計画以上に取り組めた				
②市民、地域が主体となった交流の促進		-	多文化共生課	出前講座などによる多文化理解の啓発を行います。	b：取組実績把握	-	-	生涯学習支援員や民生・児童委員、地域のグループや児童館、小学校などへの出前講座を計7件実施しました。地域の親子が参加する市民グループから出前講座ではフィリピンの文化や料理を紹介しました。（子ども20人、保護者14人参加）	出前講座は、同じ団体等から引き続き依頼があったり、参加された方から新たに依頼があったりと、その需要から多文化共生への関心が伺えます。今後も増えていくことが予想されます。	B：概ね計画通り取り組めた			

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2025(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)			
				エグゼディ	各種イベントの幹旋（伊賀FCくノー三重のホーム試合観戦、EXD車球部ホームマッチの案内など）	b：取組実績把握	-	-	-	・3～10月 伊賀FCくノー三重ホームゲーム観戦チケットの幹旋 ・事業所周辺のクリーンキャンペーンを11月1日に実施。	継続的に実施していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
	3-C-(1) 学習・文化活動に参加できる環境づくり	① 生涯学習・文化施設等における多言語対応の推進	-	上野図書館	外国語表記のある絵本を充実することで、外国につながるのある子どもたちや市民の利用に供し、異文化理解につなげます。	a：数値把握	外国語の絵本の購入冊数	20冊	19冊	既に所蔵している外国語表記のある絵本と同様、利用者への閲覧・貸出を進める予定である。	いろいろな言語の絵本を所蔵し、より多くの選択肢を提供するため、引き続き所蔵冊数の増加を進める。	B：概ね計画通り取り組めた
				生涯学習課	生涯学習事業のチラシにはルビをふる、わかりやすい言葉で作成するなど丁寧な表現で提供するよう努めます。	d：把握困難	-	-	-	生涯学習事業の参加者募集チラシにはルビをふる、やさしい日本語で作成するなど、誰にでも分かりやすいチラシの作成に努めました。	チラシへの記載内容を必要最小限に絞ることで、より分かりやすいチラシ作りを心掛けます。	B：概ね計画通り取り組めた
	3-C-(2) 外国人住民との連携・協働	① 住民同士の連携・協働の促進	-	医療福祉政策	地域住民と外国人住民が交流する事業等について、地域福祉ネットワーク会議を中心にそれぞれの地域で検討していくように努めます。	b：取組実績把握	-	-	-	地域福祉計画策定の過程で市内全39地域で地域福祉ネットワーク会議を実施しました。	今後は、ワークショップで見えてきた地域課題について、改善策等を検討するため、引き続き地域福祉ネットワーク会議の開催を推進していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	外国人防災リーダーなどの人材を活用し、地域との交流の機会を促進します。	b：取組実績把握	-	-	-	地域で外国人住民と連携・協働を推進する担い手づくりのため、委託事業により多文化共生コミュニケーションマスター養成講座を実施しました。 また、協働による地域活動支援事業では、2団体に地域交流を支援する事業を実施していただきました。	外国人防災リーダーを活用した事業を実施することはできませんでした。 委託事業により養成講座を修了した方が今後も学びや実践を継続していただける取組が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
				伊賀の伝丸	国籍を超えた地域交流支援事業(交流サロン事業)を実施します。	a：数値把握	サロン取組団体数	3	3+α	①青山小 陽だまり@まちライブラリー ②愛宕町運動会 お誘い事業 ③諏訪文化祭 お誘い事業 ④ひまわりマルシェ@幸育会 ⑤新天地クリスマスマーケット	地域図書館、自治組織などの企画に関わり、交流の糸口ができた。ただ多くの人が交流するところまでには至らなかった。④と⑤は今回の事業展開としても参考だったのでこの知見を活かしていきたい	B：概ね計画通り取り組めた
				国際交流協会	やさしい日本語でつながろう！「交流編」を実施します。（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用） 在住外国人の地区活動への参加を促進します。	b：取組実績把握	-	-	-	・久米自治協及び西柘栢まち協の2地区で、地域住民（外国人・日本人）を対象に「やさしい日本語」をツールとしたやさしい日本語でつながろう！（交流編）を実施しました。 ・久米自治協では、「夏祭り」に出席。地域在住のベトナム人の協力を得て、ベトナム語の名刺づくり、ベトナム語の簡単な言葉など学ぶ等「やさしい日本語」を使い参加者と楽しく交流しました。西柘栢まち協では、「いがまち展覧会」に出席。市内在住のベトナム人と地域内企業の技能実習生が参加し、地域住民との交流を楽しみました。（参加者総数：約200人） （伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースの3事業の内の1回として実施） ・在住外国人の参加呼びかけは、地区のキーマン的存在の方への依頼や自治協から企業への参加要請を行いました。	・外国人住民の参加については、チラシ等の周知方法では難しいと思います。 ・外国人住民とのつながりをどの様に構築するかが、今後の課題だと思います。 ・事業の継続により少しずつでも多く参加してもらえるようにする。	B：概ね計画通り取り組めた

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)			
4	外国人住民も活躍する地域づくり											
	4-A- 日本語学習機会の拡充	① 日本語学習の機会づくり	◆地域や企業における交流機会を活かした日本語学習の機会づくり	多文化共生課	地域の交流の場で使えるやさしい日本語の学習機会を提供します。	b：取組実績把握	-	-	-	地域で外国人住民と連携・協働を推進する担い手づくりのため、委託事業により多文化共生コミュニケーションマスター養成講座を実施しました。	受講者に日本語学習のボランティアスタッフとなってもらうために、継続した学習や実践に繋げる支援が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
				生涯学習課	地域の活動に活かせるよう、担当課から情報提供をしてもらいます。今後は、年に2回各地区へ活動の照会を行うなどして、取組状況の把握に努めます。	a：数値把握	取組状況の把握	2回	1回	各地域に国際交流協会主催事業「やさしい日本語でつながろう」（3回連続講座）の案内をしました。	多文化共生課始め関係団体が開催する日本語学習等についての情報発信に努めます。	C：あまり計画通りに取り組めなかった
				エクセディ	技能実習生への日本語オンライン講座の開催	b：取組実績把握	-	-	-	4～6月、9～11月にて日本語eラーニング講座を実施。	継続的に実施していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	日本語教室の取組拡充について、庁内及び関係機関と検討を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	多言語情報紙で日本語教室の開催に関する情報提供を行いました。	地域日本語教育コーディネーターの活用などにより、地域にあった取組みの検討が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
				生涯学習課	地域の活動に活かせるよう、担当課から情報提供をもらいます。今後は、年に2回各地区へ活動の照会を行うなどして、取組状況の把握に努めます。	a：数値把握	取組状況の把握	2回	1回	「やさしい日本語でつながろう」（3回連続講座）に取り組んだ地域があります。	どの地域にも外国につながる方が在住していることから、やさしい日本語教室等を拡充していく必要があります。	C：あまり計画通りに取り組めなかった
				伊賀の伝丸	企業内日本語講座への講師派遣をします。	c：その他	-	-	-	企業内日本語講座への講師派遣	今後も講座を提供するためには、適正人材の確保、価格など時代のニーズにこたえる工夫が必要と考えます。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 協働による日本語教室の開設	◆日本語教室の拡充	多文化共生課	日本語教室やweb教材などを紹介し、日本語教育の活動支援を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	多言語情報紙で日本語教室の開催に関する情報提供を行いました。	地域日本語教育コーディネーターの活用などにより、地域にあった取組みの検討が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
				商工労働課	人権啓発企業訪問の際に外国人雇用があるか確認の上、言葉や文化に対する取り組みを行っているか実態把握し、取り組みがないなら取り組むよう検討を促します。	b：取組実績把握	-	-	-	職業相談員による職業相談を実施するとともに、人権啓発企業訪問において外国人の雇用等に関する啓発を行いました。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	人権学習企業連絡会などを通じ、日本語教育の実情把握を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	外国人住民と事業所・団体を対象とするアンケートにより日本語学習の機会や内容について調査しました。	アンケート結果を分析し、実情に合った取組を検討していく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
				商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発の際に、外国人雇用があるか確認の上、言葉や文化に対する取り組みを行っているか実態把握し、取り組みがないなら取り組むよう検討を促します。	b：取組実績把握	-	-	-	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において外国人の雇用等に関する啓発を行いました。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた
				生涯学習課	地域における日本語学習の実情把握に努めます。	d：把握困難	-	-	-	生涯学習支援員研修会において、多文化共生事業の交流をしました。	今後も参考にし合えるよう、地域における多文化共生事業の把握に努めます。	B：概ね計画通り取り組めた
				③ 子どもへの支援	◆長期休暇期間中における学習支援教室の開催	多文化共生課	長期休暇期間中に外国につながるこどもの学習支援の一環としてセミナーを開催します。	a：数値把握	外国につながるあるこどものためのセミナー実施	2回	2回	夏休みと冬休みに外国につながるもつ小学生を対象に学習会を実施しました。（8月6日・7日延べ55名参加、12月26日27名参加）
	生涯学習課	小学生を対象として、放課後や長期休暇中の活動拠点（居場所）を提供します。また、今年度から開設する教室へ適切な指示・助言を行います。	a：数値把握			放課後子ども教室開設数	5か所	5か所	小学生を対象として、安心・安全な子どもの活動拠点（居場所）を提供し、地域の下端の参画を得て、勉強やスポーツ、文化芸術や体験活動の取り組みを支援しました。	各子ども教室間の連携や情報交換の場を設け、一層の活動の強化や相互連携にも取り組みたい。また放課後児童クラブとの連携も進めたい。	B：概ね計画通り取り組めた	
	国際交流協会	漢字学習支援教室を開催します。	a：数値把握			教室開催	38回	41回	・外国につながるある児童（小学1～4年生）を対象に漢字学習教室を水曜日（15:30～16:30）に年41回（俳句教室含む）開催しました。 （登録児童数7人※他、年度途中で4人退教室） ・夏休みに俳句教室を開催しました。（参加者数15人）	・親の就労や帰国により送迎ができなくなり、退教室や欠席に追い込まれる児童もいました。	B：概ね計画通り取り組めた	
	多文化共生課	長期休暇期間中に外国につながるこどもの学習支援の一環としてセミナーを開催します。	a：数値把握			外国につながるあるこどものためのセミナー実施	2回	2回	夏休みと冬休みに外国につながるもつ小学生を対象に学習会を実施しました。（8月6日・7日延べ55名参加、12月26日27名参加）	長期休暇中の宿題などの勉強のほか、伊賀市の文化などに触れる体験学習も併せて実施していきます。（R7年度は俳句づくりと和菓子店の見学）	B：概ね計画通り取り組めた	

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)			③ 実績値(2025)	① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価		
						タイプ※	指標名	見込値(2025)						
			◆学習支援に携わる人材等の育成	学校教育課	各校に日本語指導コーディネーターを派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修などを実施するとともに、外国人児童生徒教育の担当者を対象に研修を実施します。	b：取組 実績把握	-	-	-	外国人児童生徒教育コーディネーターである船見和秀先生を小中学校へ派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修、個別の測定のサポートを行い、受入体制の整備につなげました。また、船見先生を講師として、市内全小中学校の外国人児童生徒教育（日本語指導教育）の担当者を対象に日本語指導者研修会を行いました。 （1）第1回研修会（5月26日） ・講義「はじめての日本語指導～最新情報をふまえて～」 （2）第2回研修会（8月18日） ・講義「実践をシェアしよう～わかりやすい授業のために～」 ・ミニパネルディスカッション ・グループ交流	外国人児童生徒教育コーディネーターを派遣することにより、小中学校の指導体制や日本語指導等の課題に応えることができました。また、児童生徒の日本語能力に合わせて、適切な教材の紹介やその活用等、必要な情報を提供することができました。 研修会では、「やさしい日本語」で話すポイントとしての「ハサミの法則」や、児童生徒の多様な背景をつかみ、長期的な将来ビジョンを把握したうえで取組に学びました。また、実践報告やパネルディスカッションをきっかけにして自らの取組を振り返り交流することで、学力保障や進路指導に取り組むことの重要性を学ぶことができました。	B：概ね計画通り取り組めた		
						伊賀の伝丸	ささゆり教室ボランティア先生研修を実施します。	a：数値 把握	研修会開催	1回	1回	ささゆり教室ボランティア先生研修の実施	ささゆり教室ボランティア先生研修の実施 互いの意見交換もでき、充実した研修となりました。	B：概ね計画通り取り組めた
						国際交流協会	漢字学習支援教室ボランティア先生の募集と研修を実施します。	a：数値 把握	研修会開催	1回	1回	・3月、教育委員会より講師をお招きし、漢字学習支援教室のボランティアスタッフ向け研修会をします。	今後も継続し行います。	B：概ね計画通り取り組めた
						学校教育課	初期適応指導教室の運営により、児童生徒への初期日本語指導や学校への適応指導に一定の成果をあげています。今年度も個々の日本語能力等に応じて学習を行います。 また、物理的な条件等により初期適応指導教室に通級できない児童生徒に対しても、県が実施するオンラインによる日本語指導の活用や日本語指導ボランティアの派遣により、在籍校において初期日本語指導を実施します。	b：取組 実績把握	-	-	-	初期適応指導教室の運営により、児童生徒への初期日本語指導や学校への適応指導に一定の成果をあげています。今年度は、タイ人1名（小学生）、ネパール人1名（小学生）、フィリピン人1名（小学生）が入室し、個々の日本語能力等に応じて学習を行いました。	昨年度までの外国籍児童生徒の増加傾向から、今年度は3名の入室にとどまりました。社会情勢や経済状況の影響が考えられます。今後、それらの変化により、再び増加していくことも十分考えられるため、初期適応指導教室における指導者の確保が必要です。 また、近年、散在傾向にあり多くの学校に外国籍児童生徒が在籍しています。これまでに初期適応指導教室へ通うためには保護者の送迎が必要のため、通うことができないケースもありました。外国籍児童生徒の学力保障の点から、保護者の送迎が困難であっても初期適応指導教室に通うことができる手立てを考える必要があります。また、各校での日本語教育を行うためには、ボランティアスタッフも必要になりますが、募集・活用方法に課題があります。	B：概ね計画通り取り組めた
4-A- (2)	双方向による情報発信	①有効なツールの活用による情報の多言語発信	◆行政情報の多言語化	さくらサイクルセンター	スマートフォンやタブレットからごみ分別方法や収集カレンダーを確認できるよう、外国語版ごみ分別アプリ（英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、ベトナム語に対応）を導入しています。	a：数値 把握	外国語版アプリ登録数	350	322 (推定)	スマートフォンやタブレットからごみ分別方法や収集カレンダーを確認できるよう、2023(R5)年3月から、外国語版ごみ分別アプリを導入している。 アプリは、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、ベトナム語に対応。 やさしいにほんごを用いて外国語版での広報を実施。	居住地区のごみ収集日、分別区分や出し方などをスマートフォンやタブレットから簡単に確認することができるため、今後も普及啓発を図る。	B：概ね計画通り取り組めた		
				多文化共生課	多言語情報紙の発行や庁内各課からの依頼により情報の多言語化を行います。また、多言語情報の活用について周知を行います。	a：数値 把握	多言語情報誌の発行	12回	12回	広報「いが」の中から外国人住民が特に必要な情報を抜粋し、毎月発行しました。 また、庁内各課や自治会からの依頼を受けて、文書の翻訳や情報発信を行いました。	翻訳して多言語情報紙などに掲載している情報以外にも必要な情報があると思われるため、様々なツールを活用して多言語化していくことが必要です。	B：概ね計画通り取り組めた		
				多文化共生課	◆SNS等の活用	多文化共生センターホームページ、フェイスブックを活用し、積極的な情報発信に努めます。	a：数値 把握	フェイスブックでの発信	60回	95回(見込)	多文化共生センターホームページやフェイスブックで多言語での情報発信を行いました。	多くの人に情報が届くよう発信の内容や方法を随時検討する必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた	
				国際交流協会	◆外国語版情報紙のPRと活用	多言語情報紙の発行と配布、ホームページへの掲載をします。多言語情報紙の周知と電子版の推進をします。	b：取組 実績把握	-	-	-	・5言語（ポルトガル語・スペイン語・中国語・英語・ベトナム語・やさしい日本語）を月1回発行、関係機関、幼児、小・中学校、企業、自治会等へ配布しました。 ・種々行事等において多言語情報紙の周知を図るとともに電子版への移行を推進した。	・多言語情報紙を必要とする全ての方に配布されているか否か不透明、色々な機会を通してのPRが必要。	B：概ね計画通り取り組めた	
		②情報を「つながり」機能と体制の構築	◆外国人サポーターなどの人材発掘と活動のマッチング	多文化共生課	多文化共生相談員や各種団体等と協力し、人材発掘を行います。	b：取組 実績把握	-	-	-	外部からの問い合わせに対し、多文化共生相談員や各種団体と協力し、マッチングを行いました。	各種団体と協力し、地域で活躍する外国人住民を繋げていければと考えています。	B：概ね計画通り取り組めた		

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)			
		◆企業従業員等への情報提供の充実		商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発の際に、外国人に関する資料を社員も含めて広く閲覧できる環境下（食堂や休憩室など社員が共用しているスペースなど）に置いてもらえるよう依頼します。	b：取組実績把握	-	-	-	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において外国人の雇用に関する資料を共有の場に設置していただくよう依頼しました。3月末までに196の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施します。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	市内の企業等と連携し、多言語対応の情報活用について企業訪問等で啓発を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	協力確認書を活用し、提出があった企業等への情報提供を行いました。相談窓口や多言語情報紙などについて、他課にも企業への訪問を実施する際に情報提供をしてもらいました。	今後も協力確認書を積極的に活用し、情報提供を行います。	B：概ね計画通り取り組めた
				商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発の際に、外国人に関する資料を社員も含めて広く閲覧できる環境下（食堂や休憩室など社員が共用しているスペースなど）に置いてもらえるよう依頼します。	b：取組実績把握	-	-	-	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において外国人の雇用に関する資料を共有し、社内で広く周知していただくよう啓発しました。3月末までに196の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施します。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた
				エクセディ	情報誌（やさしい日本語情報誌「いが」等）の設置、通訳の配置、通訳による生活情報の提供と生活面の相談	b：取組実績把握	-	-	-	各言語の通訳を配置し、日々生活面での困り事などの相談を実施。	継続的に実施していきます。	B：概ね計画通り取り組めた
				上野商工会議所	外国人を雇用している会員企業に情報発信を行う。	b：取組実績把握	-	-	-	上野商工会議所ニュースの発行（毎月）1500事業所へ補助金等の情報提供	特になし	B：概ね計画通り取り組めた
				伊賀市商工会	外国人を雇用している会員企業に情報発信を行う。	b：取組実績把握	-	-	-	会員一斉訪問にて対象企業の情報発信	継続的な実施	B：概ね計画通り取り組めた
				商工労働課	◆企業等における「まとも役」を通じた情報伝達のしくみづくり	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発を通じて、外国人を含めた情報伝達体制を確認します。	b：取組実績把握	-	-	-	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において外国人の雇用に関する啓発を行いました。3月末までに196の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施します。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。
4-A-外国人への偏見・差別の解消	① 啓発活動の充実	◆すべての人への意識啓発	人権政策課	人権講演会や人権問題地区別懇談会、人権パネル展において周知・啓発を行います。	a：数値把握	周知回数	5回	9	地域の人権問題地区別懇談会において、外国人の人権問題について周知、啓発を行いました。（2回）また、外国人への偏見や差別をなくすために「多文化共生パネル（5枚セット）」を展示し、啓発しました。（7回）	近年の社会情勢等により、外国人住民に対する差別や偏見は増えています。多文化共生社会についての理解を深めていただくための啓発手法の検討が必要です。	A：計画以上に取り組めた	
			多文化共生課	国際交流フェスタなどのイベントを通じて、偏見・差別解消への意識啓発を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	ひゅーまんフェスタに参加し、多文化共生センターの周知を行いました。出前講座では、小学生に対し体験を交えた話をし、外国人差別を始めとする差別についての意識啓発を行いました。	イベントなどに参加していない人への啓発をどのように行っていくかの検討も必要です。	B：概ね計画通り取り組めた	
			商工労働課	人権啓発企業訪問及び伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者への啓発の際に、外国人差別だけでなく、社内でのすべての差別事象の発生有無を確認するとともに、発生した場合はその概要や対処など、再発防止策も含めて聞き取りを行います。また、外国人に関する資料を社員も含めて広く閲覧できる環境下（食堂や休憩室など社員が共用しているスペースなど）に置いてもらえるよう依頼します。	b：取組実績把握	-	-	-	人権啓発企業訪問（伊賀市人権学習企業等連絡会加入事業者を含む）において外国人の雇用を含めた人権啓発を行うとともに、外国人の雇用に関する資料について、社内で広く周知していただくよう啓発しました。3月末までに196の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施します。	業務多忙等の理由で訪問を辞退する企業・事業所がいくつかありました。こうした企業・事業所へは書類を郵送する形での啓発としました。	B：概ね計画通り取り組めた	
			生涯学習課	地域で行われる学習会を支援し、市民が人権に関する基本的な知識や考え方を習得できるように、効果的な学習機会の充実に努めます。	d：把握困難	-	-	-	「日本国内における外国人問題」をテーマに日本で生活する外国人についての研修会を実施及び支援。12月13日（土）教育集会所第2回高校生・青年人権学習交流会・実施 1月10日（土）教育集会所高校生・青年人権学習交流会視察研修・実施 2月1日（土）上野地区PTA会人権講演会・支援	市民が人権問題を身近に、まず自分の意識を考える機会となることを目指し、研修機会を充実させていくことが必要だと考える。	B：概ね計画通り取り組めた	
			エクセディ	社内の人権方針の確実な実行 企業倫理（行動規範）への反映・周知	b：取組実績把握	-	-	-	・行動規範の読合せ（2回/年）を実施。 …人権方針含む ・人権教育（1回/年）を10月に実施。	継続的に実施していきます。	B：概ね計画通り取り組めた	
			伊賀の伝丸	人権講演への講師派遣をします。	a：数値把握	参加者総数	600人	約350人	人権講演への講師派遣	小さな集まりの講演が多かったが、その分質疑応答やワークなどができ、内容は深めることができた。	B：概ね計画通り取り組めた	

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)			
		② 交流会の創出	◆多文化理解のための交流会の創出	スポーツ振興課	多文化共生課と連携し、外国語版情報誌等にイベント情報を掲載します。外国人住民の方にも情報収集してもらいやすい環境をつくりイベントへの交流会に繋がります。	b：取組実績把握	-	-	-	多文化共生課との連携ができず、外国語版情報誌等にイベント情報が掲載できなかった。	イベントの業務が多く、多言語での発信にまで手が回らなかった。今後は早めに多文化共生課と連携し、チラシ作成等計画していきたい。	C：あまり計画通りに取り組めなかった
				多文化共生課	国際交流フェスタを始めとする多文化交流の機会を充実します。	b：取組実績把握	-	-	-	10月5日(日)にJAIがふるさと「ひざっこ」で国際交流フェスタを開催し、世界の国や文化に触れるブースを設置しました。また、委託事業により多文化共生センターイベントを実施しました。(インドネシア料理教室、旧正月イベント)	イベントの内容を精査し、委託や地域移行など検討がいかなければならない。	B：概ね計画通り取り組めた
				生涯学習課	地域で行われる学習会を支援し、市民が人権に関する基本的な知識や考え方を習得できるように、効果的な学習機会の充実に努めます。	d：把握困難	-	-	-	差別解消に取り組み高校生・青年を対象に、外国人の生活実態や文化などを理解するための視察研修を実施。1月10日(土)教育集会所高校生・青年人権学習交流会	多文化理解を深めるため、歴史・文化・生活実態を学び行動に繋げるための交流会を実施していくことが必要だと考える。	B：概ね計画通り取り組めた
				国際交流協会	国際交流フェスタの開催と実行委員会等への在住外国人の参加を促進します。在住外国人が日本文化に触れるイベントや外国文化・習慣等に触れるイベント、料理教室等を実施します。	a：数値把握	イベント等の開催	3回	5回	・4月、西柘植地区まちづくり協議会と伊賀市国際交流協会がまち地区委員会との共催で同地区内の企業のミャンマーからの技能実習生と壘山桜まつりに参加。楽しく交流を深めました。 ・7月、ベトナム人のための子育てサロンを実施。 ・10月、国際交流フェスタを開催。各国や日本文化の紹介等を行うとともに防災、子育て情報等の行政情報の提供もありました。(参加者：約1,500人) ・11月、「世界の料理教室インドネシア料理」を開催。インドネシアの紹介も行いました。(参加者：19人) ・2月、伊賀市・伊賀市文化都市協会と共催で「旧正月と一緒に祝おう!」を開催。中国・ベトナム・フィリピンの旧正月の遊びや飾り等、文化紹介やそれぞれの国の音楽や踊りで、交流を深めました。(参加者：約250人)	多文化理解を深めるため、歴史・文化・生活実態を学び行動に繋げるための交流会を実施していくことが必要だと考える。 ・国際交流フェスタでは、外国人住民の実行委員会への参加が3名に増加しました。 ・行政情報の発信に伴い外国人住民の利用者が増加した部署もあります。 ・料理教室等のイベントは好評で、参加希望者が多い。今後も継続し実施します。 ・地域の外国人住民との交流が必要であることから、今後も自治協等と協働による事業を実施します。	B：概ね計画通り取り組めた
4-B-(1)	住民の声を聴くための機会づくり	① 外国人住民からの広聴機会の確保	-	広聴広報課	お問い合わせフォームやeモニター登録者を通じて、外国籍住民からの意見を聞きます。eモニターの属性は国籍を把握していないので、実績として人数や意見数を把握することは難しいです。多文化共生の意見は日本人からも外国人からも寄せられることが望ましく、引き続き市民からの意見募集やeモニター制度を活用していきます。	b：取組実績把握	-	-	-	お問い合わせフォームなどを通じて市民の意見を聞くほか、eモニター制度を使って市政に対する意見を聞いた。	お問い合わせフォームを通じて、市の外国籍職員採用に関して多くの意見が寄せられたが、当事者である外国人住民からの意見は少数だった。多文化共生の意見は日本人からも外国人からも寄せられることが望ましく、引き続き市民からの意見募集やeモニター制度を活用していく。	B：概ね計画通り取り組めた
				多文化共生課	外国人住民を含む多文化共生推進プラン委員会や外国人住民アンケートを実施し、当事者の意見を聴く機会を設けます。	a：数値把握	委員会等の開催	3回	3回	多文化共生推進プラン委員会で当事者としての意見を出していただきました。また、多文化共生推進プラン(第2期)の策定に向けて、アンケートと外国人住民ワークショップを実施しました。	今後も、さまざまな方法で当事者の意見を聴く機会を設けていきます。	B：概ね計画通り取り組めた
4-C-(1)	まちづくり、地域づくりへの参画	① 市政への参画機会の確保	-	多文化共生課	外国人住民が安心して暮らすことができるよう各種委員会等へ外国人住民の参画を進めます。	a：数値把握	外国人住民の審議会委員数	9人	8人	多文化共生推進プラン委員以外にも、総合計画審議会や男女共同参画審議会、子ども、子育て会議において外国人住民が登用されています。	今後も各種委員会等への外国人住民の参画を進め、外国につながる人々の意見をまちづくりに反映していく必要があります。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 地域活動への参画促進	-									
4-C-(2)	外国人住民の人材育成と支援者の人材育成	① 意欲ある外国人住民の発掘と育成	-	多文化共生課	多文化共生相談員や各種団体等と協力し、人材発掘を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	外部からの問い合わせに対し、多文化共生相談員や各種団体と協力し、マッチングを行いました。	各種団体と協力し、地域で活躍する外国人住民を繋げていければと考えています。	B：概ね計画通り取り組めた
		② 外国人住民を支援する人材の育成	-	多文化共生課	多文化共生相談員や各種団体等と協力し、人材発掘を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	委託事業により、地域で外国人住民と連携・協働を推進する担い手づくりのため、委託事業により多文化共生コミュニケーションマスター養成講座を実施しました。	受講者が今後も学びや実践を継続していける取組み(仕組み)が必要です。	B：概ね計画通り取り組めた
4-C-(3)	外国人起業家などへの支援	① 外国人起業家への支援	-	多文化共生課	相談窓口において、通訳・翻訳等多言語で支援を行います。	b：取組実績把握	-	-	-	起業の相談を受けた際、関係機関に問い合わせるなどの支援を行いました。	関係機関との連携を円滑にし、起業家支援に関する情報を外国人住民にも提供します。	B：概ね計画通り取り組めた

展開方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2026(R7)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	活動指標(把握可能なもの)				① 2025(R7)年度 各主体の取組実績	② 2025(R7)年度 課題・改善案	④ 2025(R7)年度 取組に対する評価
						タイプ※	指標名	見込値(2025)	③ 実績値(2025)			
				商工労働課	地元の商工団体やゆめテクノ伊賀のインキュベーションマネージャー等と連携し、起業を検討している方に対するサポートを行います。	c：その他	起業・経営革新促進事業補助金の採択数（外国人だけでなく日本人も含めた総数）	19件	8件	起業支援に関する情報を上野商工会議所、伊賀市商工会、ゆめテクノ伊賀等と適時共有し、支援体制を強化しました。 関係者と連携した補助金の相談対応、申請支援等を行うことにより、令和7年度起業・経営革新促進事業補助金として8件を採択しました。（本年度は外国人申請なし）	国の補助金と申請期間が同時期にあり、例年に比べて、申請者および採択者が大きく減少しました。来年度については、国の動向を注視しつつ、多くの申請を受けることができるよう事業を進めてまいります。	B：概ね計画通り取り組めた
				上野商工会議所	確定申告、国・県・市の支援金、給付金、補助金等についての説明指導を行う。	d：把握困難	-	-	-	外国人事業者への創業支援や国・県・市の補助事業の申請支援	通訳の方が同行されたり、日本語の分かる方が来所されています	B：概ね計画通り取り組めた
		② イベント等への支援		スポーツ振興課	イベント開催時に誰もが見やすい案内やチラシ作成ができるようにします。	b：取組実績把握	-	-	-	伊賀地区駅伝大会の交通規制のチラシをやさしい日本語版で作成し配布した。	業務多忙のため、積極的に研修会に参加することができなかった。今後は担当課と連携を取りながら、チラシの作成等に努めていきたい。	C：あまり計画通りに取り組めなかった
				多文化共生課	イベント等の企画や通訳・翻訳業務を支援します。	b：取組実績把握	-	-	-	イベント企画などの相談を受けた際、関係機関に問い合わせるなどの支援を行いました。	関係機関との連携を円滑にし、外国人住民が主体となったイベントの企画を支援します。	B：概ね計画通り取り組めた

■伊賀市多文化共生推進プラン 第1期（2023-2026） 成果指標実績表

展開方向1 だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	伊賀市に住んでとてもよかったと感じている外国人の割合	現状値 39%	目標値	41%	43%	44%	目標値 45%
			実績値	41%	37%	43%	
			達成率	100%	86%	98%	
指 標	外国人防災リーダー研修受講者 累計人数	現状値 14人	目標値	30人	35人	35人	目標値 35人
			実績値	31人	39人	39人	
			達成率	103%	111%	111%	

展開方向2 教育・子育てしやすい地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	とても子育てしやすいと感じる人の割合	現状値 39%	目標値	43%	47%	51%	目標値 55%
			実績値	41%	33%	43%	
			達成率	95%	70%	84%	
指 標	高等学校への進学率	参考値 95% (2021)	目標値	97%	98%	99%	目標値 100%
			実績値	100%	100%		
			達成率	103%	102%		

※2022 高等学校への進学率(37/38) 97.36%

展開方向3 国籍を越えた交流による地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	日本人との交流がある外国人の割合	現状値 44%	目標値	46%	47%	48%	目標値 50%
			実績値	40%	44%	42%	
			達成率	87%	94%	88%	
指 標	「やさしい日本語」の研修受講者 累計人数	現状値 35人	目標値	75人	115人	155人	目標値 180人
			実績値	192人	299人		
			達成率	256%	260%		

展開方向4 外国人住民も活躍する地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	外国人住民の審議会等委員 延べ人数	現状値 5人	目標値	6人	7人	8人	目標値 8人
			実績値	8人	9人	8人	
			達成率	133%	129%	100%	
指 標	差別を受けたことがある人の割合	現状値 21%	目標値	15%	10%	5%	目標値 0%
			実績値	18%	34%	22%	
			達成率	83%	29%	23%	